

3 スクリーニング実践Q & A

スクリーニングシートへの入力には、どのくらい時間がかかりますか？

実践校では10～20分が最も多く42.3%で、30分以上は0%でした。教科の先生や養護の先生へも協力してもらい、項目ごとに分担すると効率よく取り組みます。



スクリーニング会議は、どれくらいの回数を行うとよいですか？

少人数で学年会や打ち合わせの際に行っています。一週間では数字の変化はほとんどないことが多いので、必要性を感じた時に行いました。また、定期的に行う会議も設定しました。



スクリーニング会議は、どのように行っていますか？

気になった変化があったときに参加者を固定することなく、臨機応変に時間をとって行う場合と、SCやSSWを交えて様々な立場の人で協議する場合があります。情報共有だけで終わらないように、今後の見守りや具体的な指導を決めています。全体のデータをまとめる方がいると、全体を俯瞰できるので効果的にスクリーニング会議が進められます。

取組に際して実施すると効果的なことはありますか？

保護者の皆様に、悩みや苦しみの早期発見だけでなく、成長を見とって認めることにもつながることを伝えておくと、一緒に子供たちの成長を見ていくことになり、効果的です。



「チーム力」「教師の目」の強化について効果があったことは何ですか？

ICTの活用により必要なデータにいつでもアクセスでき、SC・SSWにも共有して、面談や関係機関へつなぐことができました。また、同じ資料を基に多数で検討することで、経験の浅い教員が児童生徒を見とる視点を学び、より自信をもって子供と関わることできました。

実践してみて分かった効果や課題はありますか？

効果として、スクリーニングはその数字の変化から小さな成長も見つけることができ、その成長を認めて一緒に喜ぶことができました。課題としては、負担感があることです。実践の中で、ICT機器を活用した入力や会議の方法を工夫するなど改善の必要があります。



4 スクリーニングから広がる連携 ～社会に開かれた生徒指導へ～

スクリーニング等により子供の苦しみや問題の発見がなされた場合、基本的に学校を中心とした解決支援チームで対応します。問題によっては、そのアセスメントを基に、**教育相談コーディネーター**や**教育相談担当**、**特別支援教育コーディネーター**、**SC**、**SSW**、**関係機関職員**等で協働して、校内で連携をとる支援チームを拡大し、組織的な支援によって早期に対応することが望めます。

また、虐待や暴力、窃盗等が疑われるケースなど、学校だけの対応では、指導に十分な効果を上げることが困難であると判断した場合は、**ためらうことなく早期に警察や児童相談所等の関係機関に相談**することが大切です。

学校は、教育機関であることを踏まえ、早めの相談を積極的に行うことで早期解決に努めましょう。

学校内そして地域・社会で連携することで、子供のちょっとした変化から小さな成長を見つけて認め合ったり、問題を早期に把握したりして、子供の安心と成長につなげる。こうした積み重ねが、すべての子供の居場所となる学校教育を創っていくのではないのでしょうか。

すべての子供の居場所となる学校教育の推進 ～「スクリーニング」を活用した未然防止・早期発見のための取組を通して～

生徒指導リーフ No.10-1 では、すべての子供を対象とした未然防止・早期発見のために「スクリーニング」の理論を紹介しました。本リーフは、その実践例と得られた効果をまとめました。子供たちが安心して学び、成長できる「すべての子供の居場所となる学校教育」への一助となれば幸いです。

1 すべての子供の「今」をとらえるために

スクリーニングは、既に個別の課題が認知されている子供だけでなく、すべての子供を対象として行います。子供のちょっとした変化等から「今」をとらえられれば、「小さな成長」を一緒に喜んだり、問題行動等のリスクを見逃さずに適切な対応につなげたりすることができ、それには、教師の子供を見とる目と様々なケースにチームで対応する力が大切です。

スクリーニング・シートは、そのために、学年担当、教科担任、部活動等の顧問等による複眼的な広い視野に加えて、養護教諭、SC、SSWの専門的な視野からもとえられる資料です。

スクリーニングの活動によって「チーム力」や「教師の目」の強化になることも期待されます。

①スクリーニング・シートへの入力（担任・教科担任等）
・すべての子供を対象に、スクリーニング・シートの気になる項目にチェックをする。

②スクリーニング会議（教職員がグループで行う）
・スクリーニング・シートをもとに、子供の状況や集団の傾向を見立てて、日常的な支援の方向性を決める。
★個別の課題が疑われる場合には「③ケース会議」を行う。

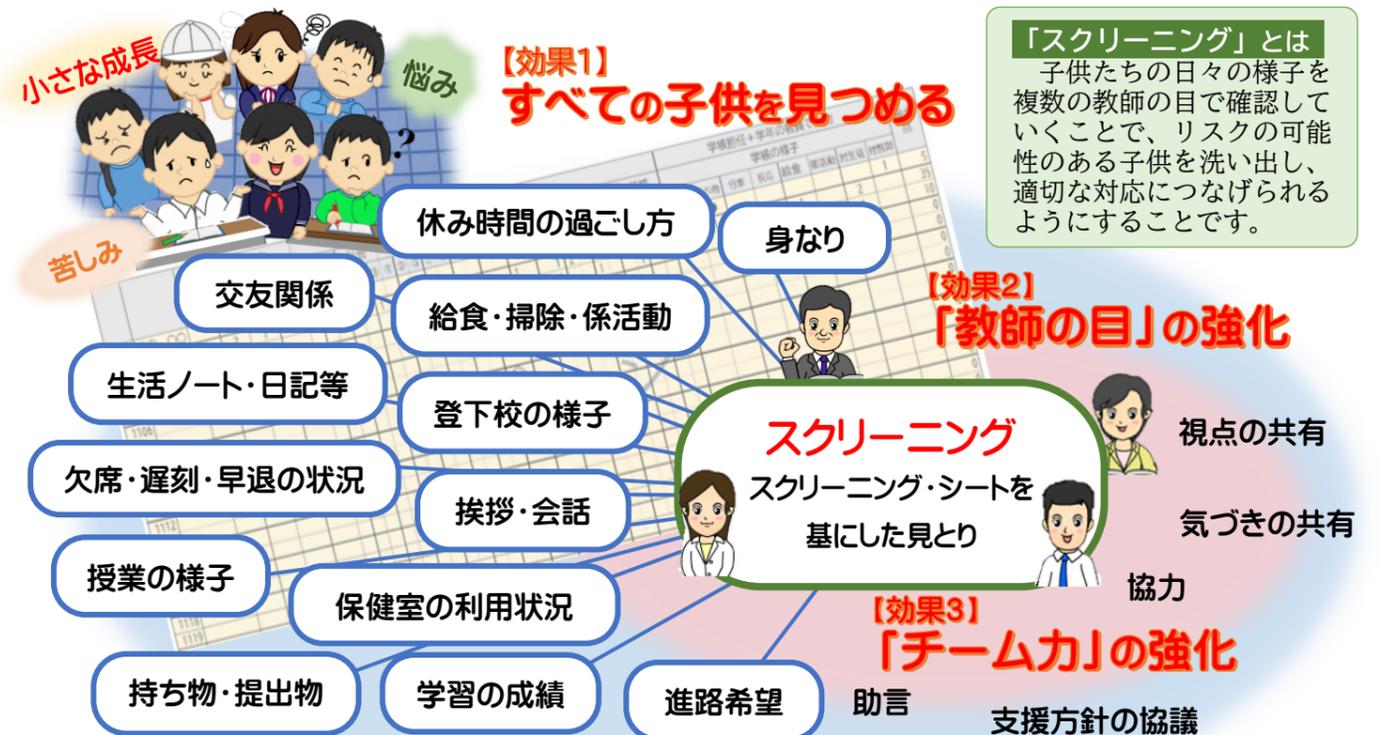
③ケース会議（個別の課題が疑われる場合）
・担任、管理職、養護教諭、SC等、多職種を交えたチームで支援の方向性を具体的に決定する。
・いじめ不登校対策委員会等を兼ねることもある。

④支援の実践（担任、学年、学校として）
・②や③で決めた支援にチームとして取り組む。

⑤取組の評価
・支援の成果と課題を評価し、新たな支援につなげる。

スクリーニングに基づく支援の手順

スクリーニングの効果



「スクリーニング」とは
子供たちの日々の様子を複数の教師の目で確認していくことで、リスクの可能性のある子供を洗い出し、適切な対応につなげられるようにすることです。

（上記スクリーニング・シートの観点）生徒指導推進協議会及び生徒指導担当指導主事会・児童生徒支援対応教員研修にて検討した際に出された、教師が子供を見とる視点です。学校の実態に応じた項目や点数等の工夫をお願いします。

